

キャンプ・ファイヤー 準備 片付け方法

山形市少年自然の家

1. 準備

(1)材料など

<自然の家で>

- ・丸太 大 24 本 中 20 本 小 16 本 (1 時間半程度)・細薪(ソッペ)・灯油 2L(それ以上は実費)
- ・金バケツ ・営火長、火の巫女の衣装 ・CDプレイヤー ・アンプ ・ドラム

<各団体で>

- ・トーチ棒 ・マッチ ・新聞紙

* トーチの数の例：参加者 + 営火長 + 火の巫女 + 班長

(2)場 所・本館営火場(100 人用) ・荒沼キャンプ場営火場(100 人用)

・板橋沼キャンプ場営火場(200 人用)

- ① 火床(中心)の位置は、営火場の決められた場所にする。
- ② キャンプファイヤーが気持ちよくできるよう、前もって清掃し、準備しておく。
- ③ 参加者の座席は、丸太いすを置いて決めておく
火床から最低6mはなれたところに設置する。
- ④ 営火長の席は、北極星の輝く北に設置する。

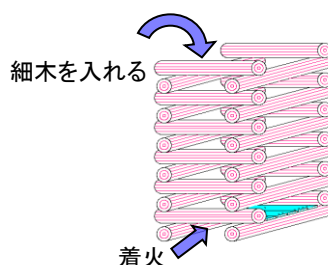
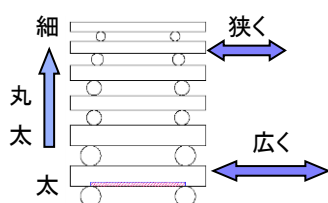
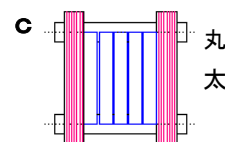
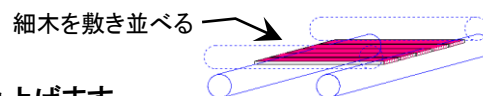
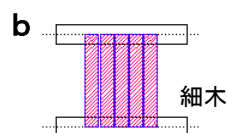
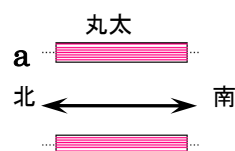


(3)営 火

①材料・・・ 上記の通り

②井桁の組み方

- a. 南北に向けて、一番太い丸太を2本おきます。
- b. 細木を上にも少し隙間を開けて敷き並べます。
- c. a に対して直角の位置から、丸太を必要な高さまで井桁に組み上げます。
この時に、木片などを使い丸太が転がり崩れない様に工夫し固定させます。
(上段へ進むに連れて細い丸太を内側に寄せ組む)
- d. 井桁の中に残った細木を入れます。(下に細いものを入れ徐々に太いものを入れる)
- e. 全体のバランスを調整して完了です。(雨天の場合は、シートを被せておく)



③トーチ棒

〈材料〉

- ・手ぬぐいなどの布切れ(木綿) * 化繊は使用しない。やけどの危険があるため
- ・針金(鉄線か銅線) * アルミは溶けてしまうので使用しない。
- ・くぎ
- ・木の棒 長さは 80cm～100cmくらい * できれば生木が良い。なければ前日から水につけておくこと

〈つくり方〉

- ①材料を用意する。
- ②手ぬぐいなどの布切れ(木綿)を針金でまく。
- ③くぎを打って、布が落ちないようにする。

〈ポイント〉

- * トーチには前もって灯油をしみこませておく。(布の部分の 3 分の2を灯油に浸す)
灯油をつけたら、30 分くらい置いてから使うこと。
- * 火がついたトーチを落としたり、振りまわしたりしないようにする。
- * 使い終わったトーチは、井桁に入れて燃やす。

5、後片付け ― 後片付けは、参加者が退場してから行いますー

- ① イスを使用した場合は、元の場所へ戻します。
- ② 火床の火を広げ、燃え残りが出ない様に全てを完全な灰にします。(水は掛けずに燃やし尽くす)
- ③ 就寝前に再度、火床を点検します。時々見回りを行って下さい。
- ④ 火床やトーチ棒の灰や炭は、翌朝、明るくなってから片付けます。
専用のホウキ・チリトリ・スコップを使用し、次の団体が気持ち良く使える様きれいに片付けます。
- ⑤ 針金等は分別し、専用の灰捨て場(ドラム缶)へ処分します。
- ⑥ 使用した物品、貸出しを受けた物品(衣装・バケツ・灯油容器など)を確認し返却します。

★火を使う活動ですので、指導者の方は安全面に十分注意してください

★悪天候時の活動や、不明な点などありましたら『自然の家職員』までご相談ください。

キャンプ・ファイヤー 進め方

山形市少年自然の家

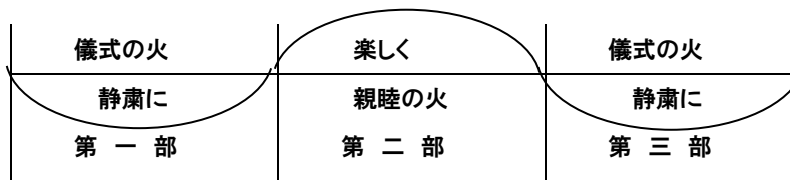
1、実施方法

(1)役割

- ①営火長 全員を代表する人(服装に工夫を凝らす)……………1名
「営火長のことば」「夜話」を担当する。
- ②司会者 プログラムを進行する。 …………… 1～2名
- ③火の巫女 トーチを持って、入場の際、営火長を先導する(女の子) ……… 1～2名
班 長 点火の際、班を代表して「誓いのことば」を担当する。 ……… 全班長
火の守(引率者) キャンプ・ファイヤーの雰囲気に合わせて、火の調節をする

(2)プログラム

- ①キャンプ・ファイヤーの全体の流れとしては、次のようになる。



*一部と三部は儀式であるから、私語は
つつしみ、静粛に。
二部はエネルギーをぶっつけて、盛り
上がるようにする

②プログラムの一例

順序		内容		備考
第一部	集合	・時間を決めておき、グループごとに集合整列する。 ・司会者は、キャンプ・ファイヤーのルールについて説明する。(次の注意を忘れずに) ○私語はしない(1部と3部) ○係以外は懐中電灯を使用しない ○係の指示に従う		出し物の練習の時点で、ルールについて徹底させておく。
	入 場	・静かに井桁を一周する ・営火長が北極星の方向へ立つので空ける		井桁を囲み円陣
	夜 の 話	・静かな歌をうたう ・歌詞⇒ハミング		「遠き山に日は落ちて」など
	営火長入場	・火の巫女がトーチを持って先導する。 (火の巫女は2名程度)		円の内側を一周して
	営火長の話	・開式のことば (火に関する話を感慨こめて手短かに)	離れた場所で、巫女のトーチにのみ点火する。	巫女は営火長を照らす
	分 火	営火長は、各班長のトーチに分火する。	巫女は営火長のトーチに点火	トーチは点火したら炎を肩の高さよりも上に保つ
	誓いのことば	班長は班を代表して、団結の誓いをする		短くはっきりと
	点 火	所定の場所(班長に前もって指示)	井桁の所定の場所に点火	

順 序		内 容	トーチの動き	備 考
第一部	炎 の 歌	「燃えろよ燃えろ」を歌う		歌詞⇒ハミング
	心 の 歌	・静かな心にしみるような歌から、力強く 明るく励ましになるような歌をうたう。		
第二部	出 し 物	・グループごとに「出しもの」を演じる。	営火長 巫女の火は消す	・司会者は盛り上がるように配慮する ・やじを入れない
第三部	静かな歌	・静かな雰囲気のを歌い、心を静める ・営火係Cは、火勢を落としていく		火の守りは火勢を落としていく
	夜 話	・営火長による閉会のことば (印象に残る心の糧となるようなもの)		全員起立
	トーチ・サービス	①営火長より分火してもらう 営火長⇒各班長⇒班員 *右まわりに順次点火		全員にトーチを渡す。 私語は慎む
	終わりのことば	司会は感謝と別れの挨拶を述べる		
	営火長退場	・営火長、火の巫女は会場を一周して退場。		今日の日はさようなら
	全員退場	・決められた順序に従って退場する(全員 無言でトーチをみつめながら)	トーチは井桁に入れて燃やす	思いをこめて退場 私語は慎む *風向き注意

**** トーチ使用時の注意 ****

・人に近づきすぎないように気をつける ・トーチを振りまわさない ・怖がって落とさない ・下げない

2、営火長のことば (例)

(1) 第1部 儀式の火

山形市少年自然の家のキャンプ場は、今静かに夜のとばりに包まれようとしています。この大自然のふところに抱かれ、私たちは最後の集いの夜を持とうとしています。風の音、虫の声、小枝のささやき……。自然の声のすばらしさを、こんなに身近に聞くことが、私たちにはあったでしょうか。

私の手で静かにゆれている、この炎。毎日の暮らしの中で、ほとんど省みられることのない炎のなんと美しいことでしょう。人類の発展太古の昔から見守ってきたこの炎を、私たちは大自然の中であって、もう一度見直し、その火の価値を再認識したいものです。

これからのひととき、大自然の中で聖なる炎を中心として心の輪を広げ、楽しく意義ある時間にしようではありませんか。

(2) 第3部 夜 話

遠い昔、羊飼いたちは夜になると夜空に広がる星をながめて、静かな草原の夜をたき火を囲みながら、語り合い、歌い明かしました。その頃の人たちにとって、火は自分の身を守る武器であり、不思議な神様の贈り物だと思っていました。火を使って人間はその便利さを知り、それによって人間の生活は変わり、文化も進歩してきました。

その後、お祭りをするようになった人間は、神様の前に火をささげることを忘れませんでした。営火のつどいも、そのようなごりを残す活動のひとつです。

真っ赤に燃え上がった炎や星空に高く舞い上がった火の粉がみなさんの心の奥にきざまれ、歌い、踊った友だちとのひとときが、たのしい思い出として、いつまでも残ることをお祈りします。

★悪天候時の活動や、不明な点などありましたら『自然の家職員』までご相談ください。

キャンプファイヤー

《 第一部 》

1. 集合
2. 夜の歌「遠き山に日は落ちて」
3. 営火入場
4. 点火の言葉
5. 点火
6. 歌「燃えろよ燃えろ」
7. 営火長の言葉

《 第二部 》

8. 楽しい歌とゲーム

《 第三部 》

9. 営火長がトーチに点火
10. 代表者へ分火
11. 各自のトーチへ分火
12. 営火長の言葉
13. 歌
「今日の日はさようなら」



遠き山に日は落ちて

- 1 とお やま ひ お
遠き山に 日は落ちて
ほし そら
星は空を ちりばめぬ
きょう わざ お
今日の業を なし終えて
こころ かる やす
心 軽く 安らえば
かぜ すず
風は涼し この夕べ
いざや たの
いざや 楽しき まどいせん
- 2 やみ も
闇に燃えし かがり火は
ほのおいま しず
炎 今は 静まりて
ねむ やす
眠れ 安く いこえよと
さそうごとく 消え行けば
もり つつ
ふかき森に 包まれて
いざや たの ゆめ み
いざや 楽しき 夢を見ん
ゆめ み
夢を見ん



燃えろよ燃えろ

- 1 も も
燃えろよ 燃えろよ
ほのお も
炎よ 燃えろ
ひ こ
火の粉を まきあげ
てん
天までこがせ
- 2 て
照らせよ 照らせよ
まひる
真屋のごとく
ほのお うずま
炎よ 渦巻き
やみよ て
闇夜を照らせ
- 3 も も
燃えろよ 燃えろよ
あか あつ
明るく 熱く
ひかりねつ
光と熱との
ほのお
もとなる炎
- 4 も も
燃えろよ 燃えろよ
ほのお も
炎よ 燃えろ
ひ こ
火の粉を まきあげ
てん
天までこがせ

今日の日はさようなら

- 1 いつまでも た
いつまでも 絶えることなく
とも
友だちでいよう
あす ひ ゆめ
明日の日を 夢みて
きぼう みち
希望の道を
- 2 そら と とり
空を飛ぶ 鳥のように
じゆう い
自由に生きる
きょう ひ
今日の日は さようなら
またあうひ
またあう日まで
- 3 ハミング
- 4 しん
信じあう よろこびを
たいせつ
大切にしよう
きょう ひ
今日の日は さようなら
またあうひ
またあう日まで
またあうひ
またあう日まで

キャンドルサービスの集い

《第一部》

1. 集合
2. 入場
3. 夜の歌「遠き山に日は落ちて」
4. 営火長入場
5. 営火長の話
6. 分火
7. 誓いの言葉
8. 点火
9. 心の歌「ふるさと」

《第二部》

10. 楽しい歌やゲーム



《第三部》

11. 静かな歌「君をのせて」
12. 営火長の言葉
13. キャンドルサービス
14. 終わりの言葉
15. 別れの歌
「今日の日はさようなら」
16. 営火長退場
17. 全員退場

遠き山に日は落ちて

遠き山に 日は落ちて
星は空を ちりばめぬ
今日のわざを なし終えて
心軽く 安らえば
風は涼し この夕べ
いざや楽しき まどいせん

闇に燃えし かがり火は
炎今は しずまりて
眠れ 安く いこえよと
さそうごとく 消え行けば
ふかき森に 包まれて
いざや楽しき 夢を見ん

ふるさと

うさぎおいし かのやま
こぶなつりし かのかわ
ゆめはいまも めぐりて
わすれがたき ふるさと

いかにいます ちちはは
つつがなきや ともがき
あめにかぜに つけても
おもいいずる ふるさと

こころざしを はたして
いつのひにか かえらん
やまはあおき ふるさと
みずはきよき ふるさと

君をのせて

あの地平線 かがやくのは
どこかに君を かくしているから
たくさんのひが なつかしいのは
あのどれか一つに 君がいるから

さあでかけよう ひときれのパン
ナイフ ランプ かばんにつめこんで

父さんがのこした あついおもい
母さんがくれた あのまなざし

地球はまわる 君をかくして
かがやくひとみ きらめくともしび
地球はまわる 君をのせて
いつかきつとであう ぼくらをのせて

今日の日はさようなら

いつまでも絶えることなく
友だちでいよう
明日の日を夢見て
希望の道を

空を飛ぶ鳥のように
自由に生きる
今日の日はさようなら
またあう日まで

信じあうよろこびを
大切にしよう
今日の日はさようなら
またあう日まで
またあう日まで

フライシート

入口のファスナーを閉めた状態で、ヘグを打込みその後、入口を開ける

※ポール袋、ペグ袋はテント収納バックに入れてテントの中へ置きます。

『新テント(タフワイドドーム IV/300)』設営の手順

★準備するもの(板橋キャンプ場管理棟より運搬)

①テント収納バッグ

②インナーテント : 1 張り / ③フライシート : 1 張り

④ ポール : 銀ポール 2 本 + 黒ポール(短い) 1 本 + 灰ポール 1 本

⑤ ペグ : ペグ 10 本(9 本 + 予備 1 本) + ハマー 1 本
ブルーシート : 1 枚 / 銀マット : 2 枚

テント収納バック内容



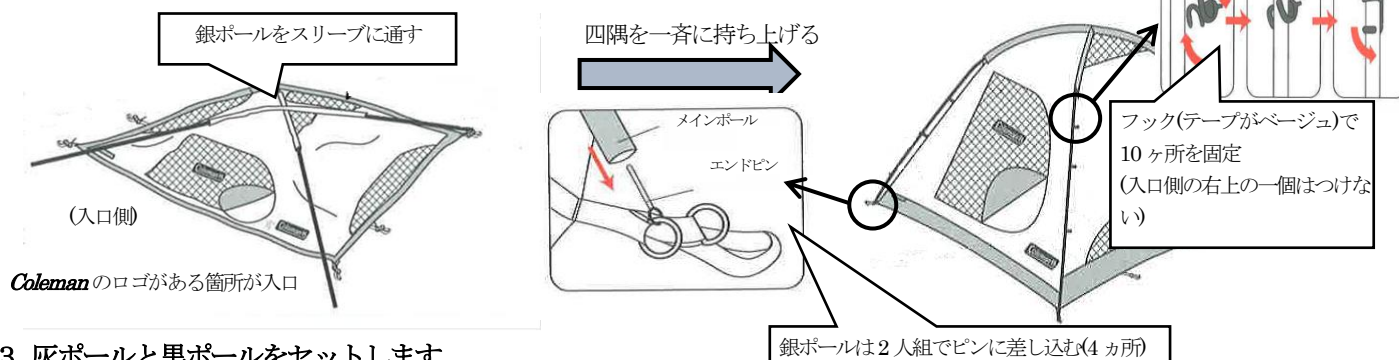
板橋キャンプ場 管理棟



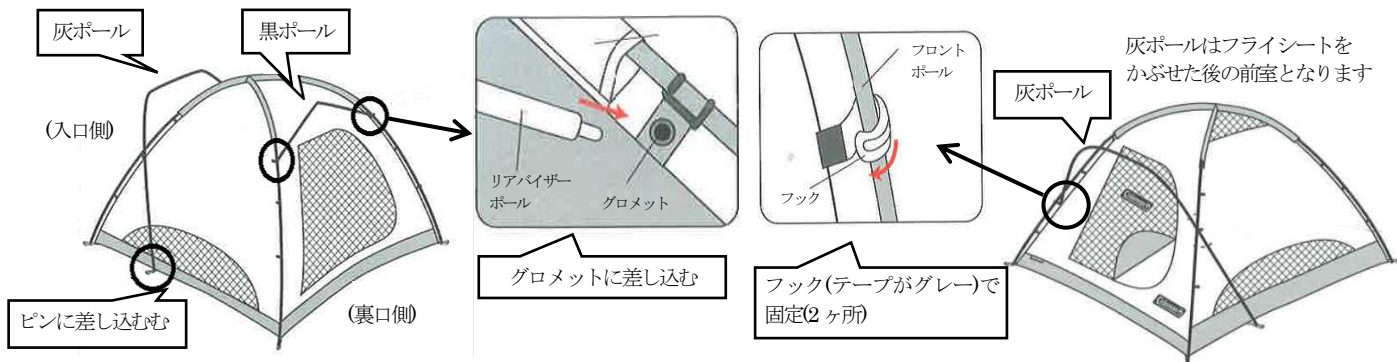
1 決められたテントサイトの場所を確認し、ブルーシートを敷きます。※テント入口を決める。

2 インナーテント(テント本体)を広げ、銀ポールをスリーブに通し立ち上げます。

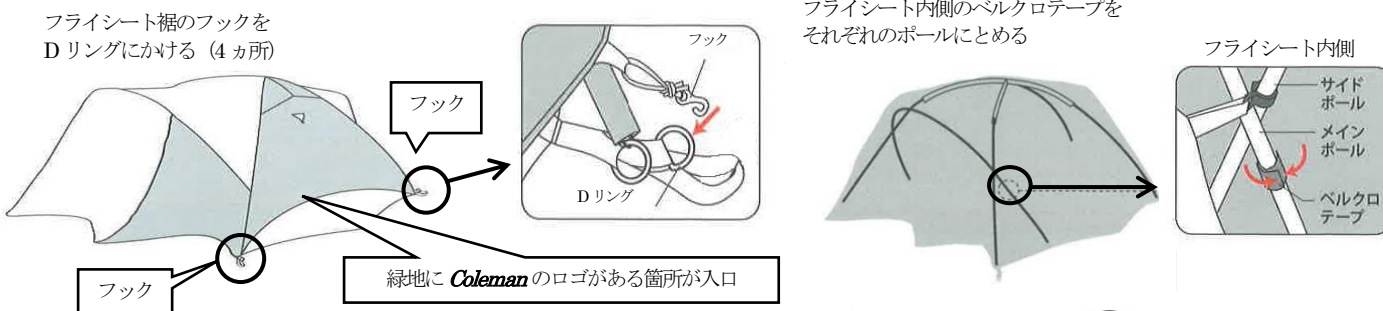
※ポールの先端が友達顔などに当たらないように注意します。



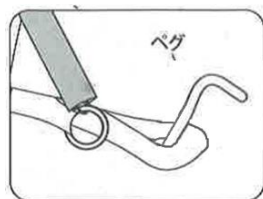
3 灰ポールと黒ポールをセットします。



4 フライシートを被せます。(インナーテントに横から被せる)



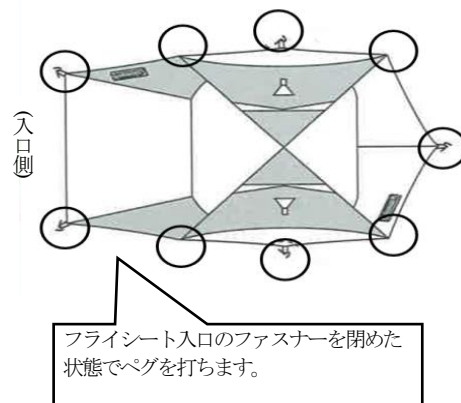
5 テントをペグで固定し、中に銀マットを敷いて完成です。



●ペグは、インナーテント四隅(4ヶ所)、フライシート入口(2ヶ所)、裏口(1ヶ所)、側面(2ヶ所)のループに通し計 9ヶ所に打込み固定します。

ペグを打込む角度は 60~90° くらい

※ポール袋、ペグ袋はテント収納バッグに入れてテントの中へ置きます。



テント撤収の手順

★板橋キャンプ場管理棟へ返却するもの

テント収納バッグ①

- ②インナーテント：1張り / ③フライシート：1張り
 ④ポール：銀ポール2本+黒ポール1本+灰ポール1本
 ⑤ペグ：ペグ10本(9本+予備1本)+ハンマー1本

ブルーシート：1枚 / 銀マット：2枚

テント収納バッグ内容



板橋キャンプ場 管理棟

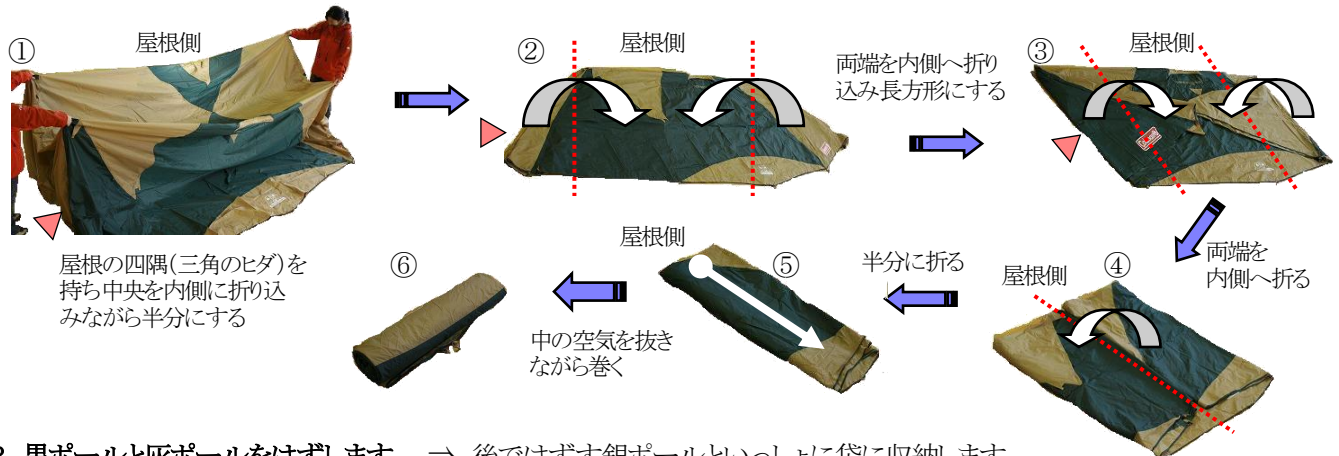
★事前に、別紙『テント点検カード』の項目に従ってテントを確認します。

午前9時以降、雨や夜露でテントが濡れている場合は、撤収の判断を含め自然の家職員の指示に従っていただきます

1. フライシートのファスナーを閉め、ペグを全て引き抜きます。⇒ ペグの数を確認し袋に収納します。

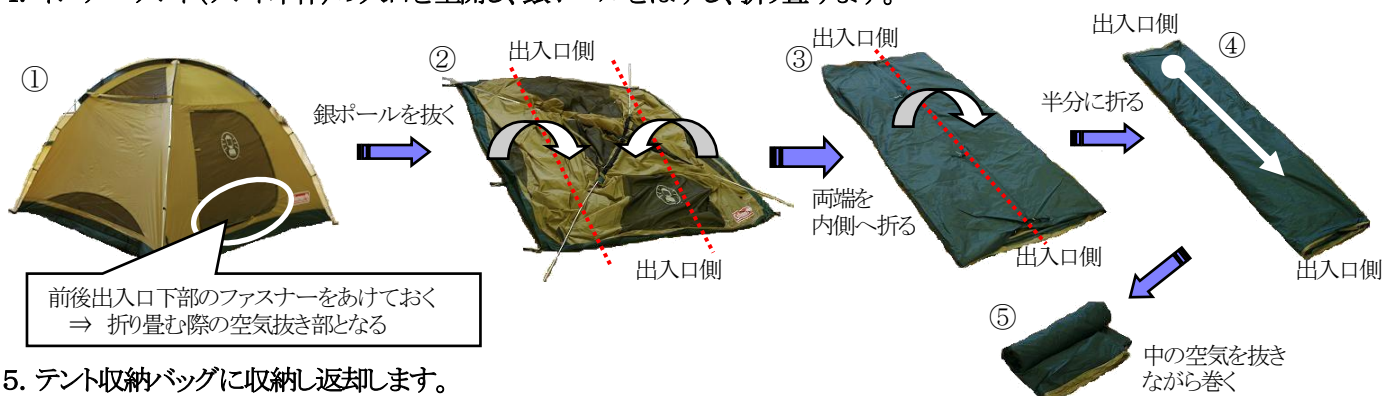
2. フライシートの留具をはずし、折り畳みます。

▲…入口を表す

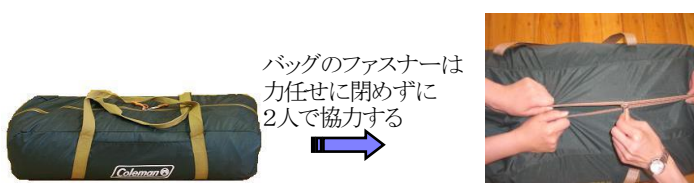


3. 黒ポールと灰ポールをはずします。⇒ 後ではずす銀ポールといっしょに袋に収納します。
 ※ポールの先端が友達の顔などに当たらないよう注意します。

4. インナーテント(テント本体)の入口を全開し、銀ポールをはずし、折り畳みます。



5. テント収納バッグに収納し返却します。



バッグのファスナーは力任せに閉めずに2人で協力する

返却する



板橋キャンプ場 管理棟

ブルーシートや銀マットも折り畳み返却する

※テント返却の際に、別紙『テント点検カード』を管理棟の村長さんへ渡してください。

シュラフ（寝袋）とインナーシーツの使い方

★準備するもの

- シュラフ ひとり1つ
- インナーシーツ ひとり1枚



準備の仕方

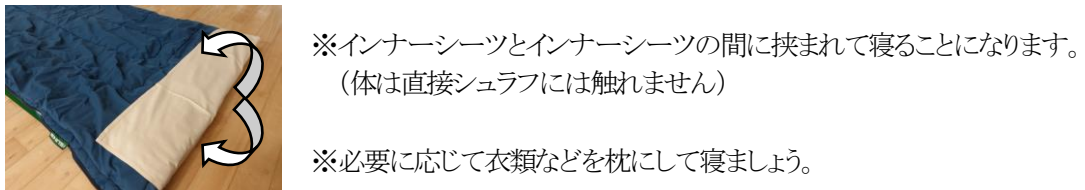
- 1 袋からシュラフを取り出し広げます。



- 2 シュラフのファスナーを開き、中にインナーシーツを敷きます。



- 3 頭側のインナーシーツを折り返し、襟カバーにして完成です。



かたづけ方

- 1 シュラフからインナーシーツを取り出し、たたみます。
- 2 シュラフを縦半分に折り、頭の方からなるべく細く巻き、広がらないようにひもで結びます。



※本館のシュラフは、袋の大きさにたたみます。

- 3 シュラフを袋に入れ、シーツと分けて返却します。

キャンプ場のシュラフ・インナーシーツは各管理棟へ
本館のシュラフは体育館、インナーシーツは2階衣料庫へ

